

チモシー播種量について！

低コストの経営を実現するには自給飼料の高品質化が重要になってきます。

より良い草地作りに向け、どれくらいの種子を播種するかは重要なポイントです。

今回はチモシーを中心に、圃場の播種量を、ポット試験事例や根室での実規模試験事例から考えてみましょう。

一・根剣における播種量は？

チモシーの適正な播種量は、平成七年に根剣農試の試験成績により、十アールあたり一・二キロ〜一・八キロの範囲で播種すると適正な生育を示されています。

二・ポット試験事例より

平成二六年にワグネルポット（五千分の一アール）を使用し十アール当たりチモシーを一キロ、一・五キロ、二キロの三段階に分け播種しました。図一が播種後二ヶ月後の様子です。

播種量の多いポットの発芽本数が多い様子が分かります。

図二は一年後の様子で二キロ

のポットは、過密気味である様子が分かります。

1kg/10a 1.5kg/10a 2kg/10a



図二 1年後の様子

1kg/10a 1.5kg/10a 2kg/10a



図一 ポット播種後2ヶ月の様子

また、三年目の平成二八年八月現在の茎数は、一キロと一・五キロでは、ほぼ差がない状況でした（表一）。このように播種条件が良ければ一キロでも十分な茎数が得られることが分かりました。

表一
3年目の㎡当り茎数(本)

1kg/10a	2,300
1.5kg/10a	2,400
2kg/10a	2,950

三・現地試験事例より

では、実際どれくらいの量を播種すれば良いか昭和六三年、根室農業改良普及所管内七カ所の圃場の調査事例をもとに示します。

チモシーを一〇アール当たり二・二〜〇・七五キロの四段階に分けた混播試験が行われました（表二）

その結果播種量の多い方が発芽個体は多くなりました。

しかし、翌春の収量は播種量が少なめの一・一キロ区のが最大となりました（図三）。

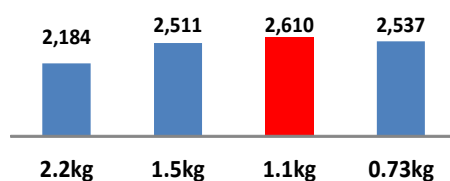
これは、一・一キロでも、条

件が整えば株が充実し良好な生育をしていることを意味します。逆に二・二キロと多すぎると、過密になり養分を奪い合い結果として収量が増えないことを実証しています。

このように、チモシーの播種量は、播種時の圃場条件に合わせて十アールあたり一・二キロ〜一・八キロの範囲で播種すると適正な生育を示すことが分かります。

表二 播種量内訳 (単位: kg/10a)

チモシー	2.2	1.5	1.1	0.73
赤クローバ	0.5	0.3	0.25	0.17
白クローバ	0.3	0.2	0.15	0.1
播種量合計	3	2	1.5	1



図三 翌春1番草収量(kg/10a)

発芽後は、掃除刈りや、適正な施肥、炭カルの施用など維持管理を徹底しましょう。播種組み合わせなどは、農協、普及センターへお問い合わせください。